

3. 第23回生命表について

今回公表する完全生命表は、通算して22回目（第7回は欠番）にあたる令和2年の生命表であり、令和2年国勢調査による日本人人口の確定数、人口動態統計の確定数（令和2年死亡数、令和元年及び令和2年出生数）を基に作成している。

（1）主な年齢の平均余命

平均寿命は0歳の平均余命であり、第23回（令和2年）生命表における平均寿命は、男81.56年、女87.71年と、前回の完全生命表と比較して、男は0.81年、女は0.73年上回った。

平均寿命の年次推移をみると、戦前は50年を下回っていたが、第8回（昭和22年）生命表の平均寿命は男50.06年、女53.96年と50年を上回った。その後、男は第10回（昭和30年）生命表で60年、第14回（昭和50年）生命表で70年、第22回（平成27年）生命表で80年を上回り、女は第9回（昭和25-27年）生命表で60年、第11回（昭和35年）生命表で70年、第16回（昭和60年）生命表で80年を上回った。（表2）

表2 主な年齢の平均余命の年次推移（完全生命表）

（単位：年）

	年次		男						女					
	西暦	和暦	0歳	20	40	65	75	90	0歳	20	40	65	75	90
第1回	1891-1898	明治24-31年	42.8	39.8	25.7	10.2	6.2	2.6	44.3	40.8	27.8	11.4	6.7	2.7
2	1899-1903	32-36	43.97	40.35	26.03	10.14	6.00	2.22	44.85	41.06	28.19	11.35	6.61	2.36
3	1909-1913	明治42-大正2	44.25	41.06	26.82	10.58	6.31	2.38	44.73	41.67	29.03	11.94	7.09	2.61
4	1921-1925	10-14	42.06	39.10	25.13	9.31	5.31	1.95	43.20	40.38	28.09	11.10	6.21	2.04
5	1926-1930	大正15-昭和5	44.82	40.18	25.74	9.64	5.61	2.17	46.54	42.12	29.01	11.58	6.59	2.24
6	1935-1936	10年度	46.92	40.41	26.22	9.89	5.72	2.14	49.63	43.22	29.65	11.88	6.62	2.09
8	1947	22年	50.06	40.89	26.88	10.16	6.09	2.56	53.96	44.87	30.39	12.22	7.03	2.45
9	1950-1952	25-27	59.57	46.43	29.65	11.35	6.73	2.70	62.97	49.58	32.77	13.36	7.76	2.72
10	1955	30	63.60	48.47	30.85	11.82	6.97	2.87	67.75	52.25	34.34	14.13	8.28	3.12
11	1960	35	65.32	49.08	31.02	11.62	6.60	2.69	70.19	53.39	34.90	14.10	8.01	2.99
12	1965	40	67.74	50.18	31.73	11.88	6.63	2.56	72.92	54.85	35.91	14.56	8.11	2.96
13	1970	45	69.31	51.26	32.68	12.50	7.14	2.75	74.66	56.11	37.01	15.34	8.70	3.26
14	1975	50	71.73	53.27	34.41	13.72	7.85	3.05	76.89	58.04	38.76	16.56	9.47	3.39
15	1980	55	73.35	54.56	35.52	14.56	8.34	3.17	78.76	59.66	40.23	17.68	10.24	3.55
16	1985	60	74.78	55.74	36.63	15.52	8.93	3.28	80.48	61.20	41.72	18.94	11.19	3.82
17	1990	平成2	75.92	56.77	37.58	16.22	9.50	3.51	81.90	62.54	43.00	20.03	12.06	4.18
18	1995	7	76.38 (76.46)	57.16 (57.22)	37.96 (38.00)	16.48 (16.50)	9.81 (9.82)	3.58 (3.58)	82.85 (82.96)	63.46 (63.55)	43.91 (43.98)	20.94 (20.98)	12.88 (12.90)	4.64 (4.65)
19	2000	12	77.72	58.33	39.13	17.54	10.75	4.10	84.60	65.08	45.52	22.42	14.19	5.29
20	2005	17	78.56	59.08	39.86	18.13	11.07	4.15	85.52	65.93	46.38	23.19	14.83	5.53
21	2010	22	79.55	59.99	40.73	18.74	11.45	4.19	86.30	66.67	47.08	23.80	15.27	5.53
22	2015	27	80.75	61.13	41.77	19.41	12.03	4.27	86.99	67.31	47.67	24.24	15.64	5.56
23	2020	令和2	81.56	61.90	42.50	19.97	12.54	4.49	87.71	68.01	48.37	24.88	16.22	5.85

注：1）第8回（昭和22年）から第13回（昭和45年）までは、沖縄県を除く値である。

2）第18回（平成7年）の（ ）内は阪神・淡路大震災の影響を除去した値である。

(2) 生命表上の生存及び死亡状況

ア 死亡率 (q_x)

第23回(令和2年)生命表の死亡率を第22回(平成27年)生命表と比較すると、男女ともほとんどの年齢で低下している。

死亡率の年次推移をみると、第14回(昭和50年)生命表から第23回(令和2年)生命表において、男女とも0歳から20歳代の低下率が大きくなっている。(図1-1、図1-2)

イ 死亡数 (d_x)

10万人の出生者が生命表上の年齢別死亡率に従って死亡していくとした場合の死亡数をみると、第23回(令和2年)生命表において、男では88歳(4,133人)、女では93歳(5,130人)でピークを迎えた後、急激に減少している。生命表における死亡数のピークは、回を追うごとに高齢に移動している。(図2-1、図2-2)

ウ 生存数 (l_x)

10万人の出生者が生命表上の年齢別死亡率に従って死亡していくとした場合の生存数をみると、回を追うごとに増加している。また、寿命中位数(出生者の半数が生存すると期待される年数)は、第23回(令和2年)生命表において、男84.51年、女90.55年で、回を追うごとに延びている。(表3、図3-1、図3-2)

表3 寿命中位数の年次推移(完全生命表)

(単位：年)

	年次		男	女
	西暦	和暦		
第8回	1947	昭和22年	59.28	64.45
9	1950-1952	25-27	67.22	71.31
10	1955	30	69.79	74.19
11	1960	35	70.66	75.44
12	1965	40	72.00	77.04
13	1970	45	73.10	78.19
14	1975	50	75.31	80.17
15	1980	55	76.69	81.75
16	1985	60	78.06	83.38
17	1990	平成2	79.13	84.71
18	1995	7	79.49	85.73
19	2000	12	80.74	87.41
20	2005	17	81.56	88.34
21	2010	22	82.60	89.17
22	2015	27	83.76	89.79
23	2020	令和2	84.51	90.55

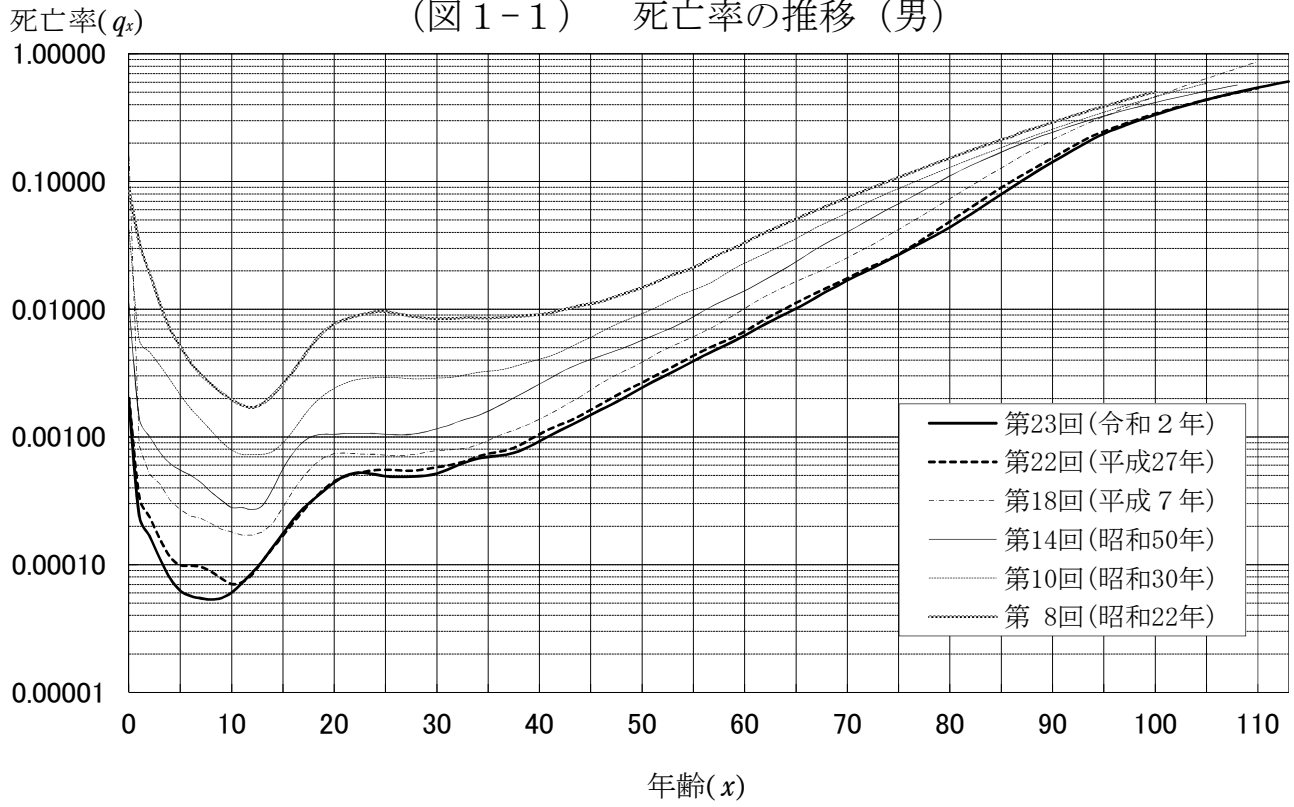
注：第13回(昭和45年)以前は、沖縄県を除く値である。

エ 平均余命 (e_x^o)

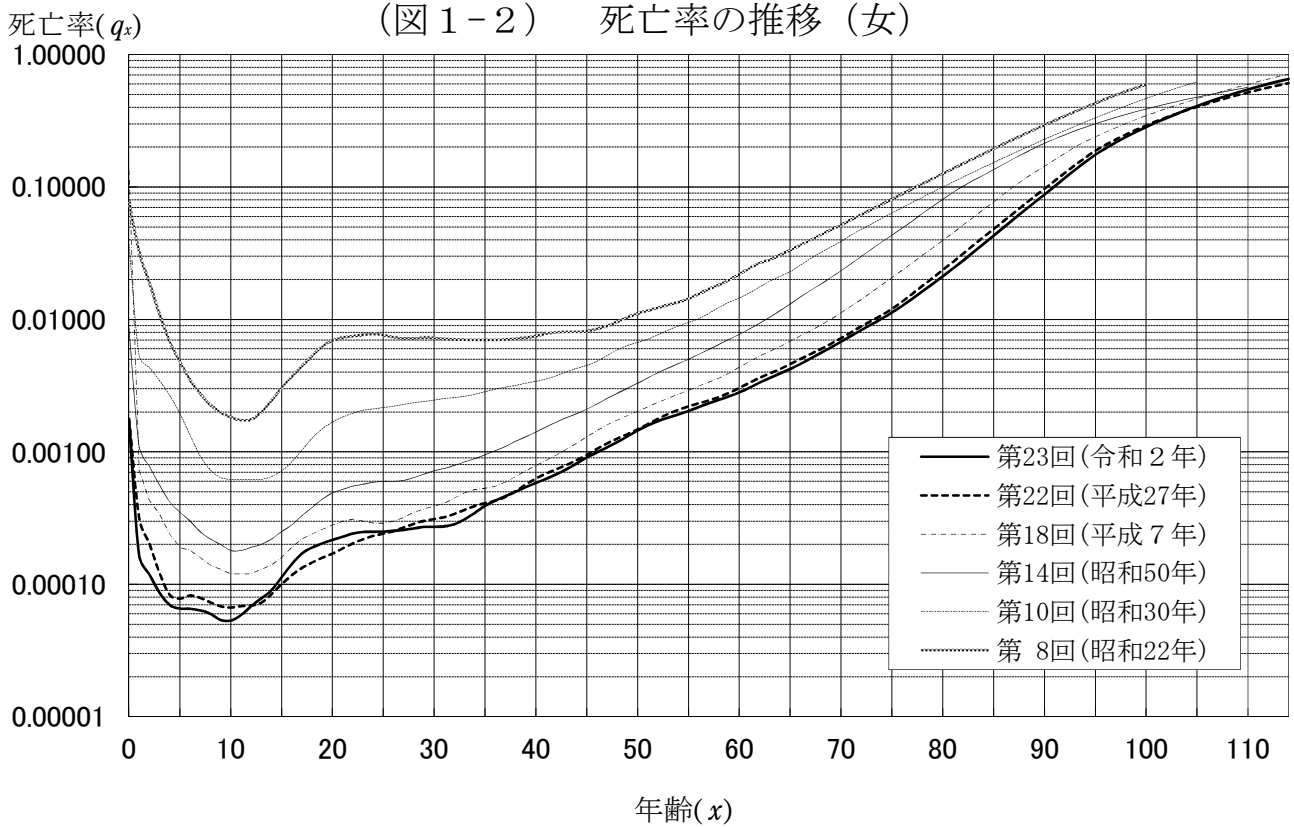
第23回(令和2年)生命表において、20歳における平均余命は、男61.90年、女68.01年、65歳における平均余命は、男19.97年、女24.88年、75歳における平均余命は、男12.54年、女16.22年となっている。

平均余命の年次推移をみると、各年齢とも回を追うごとに延びている。(表2、図4-1、図4-2)

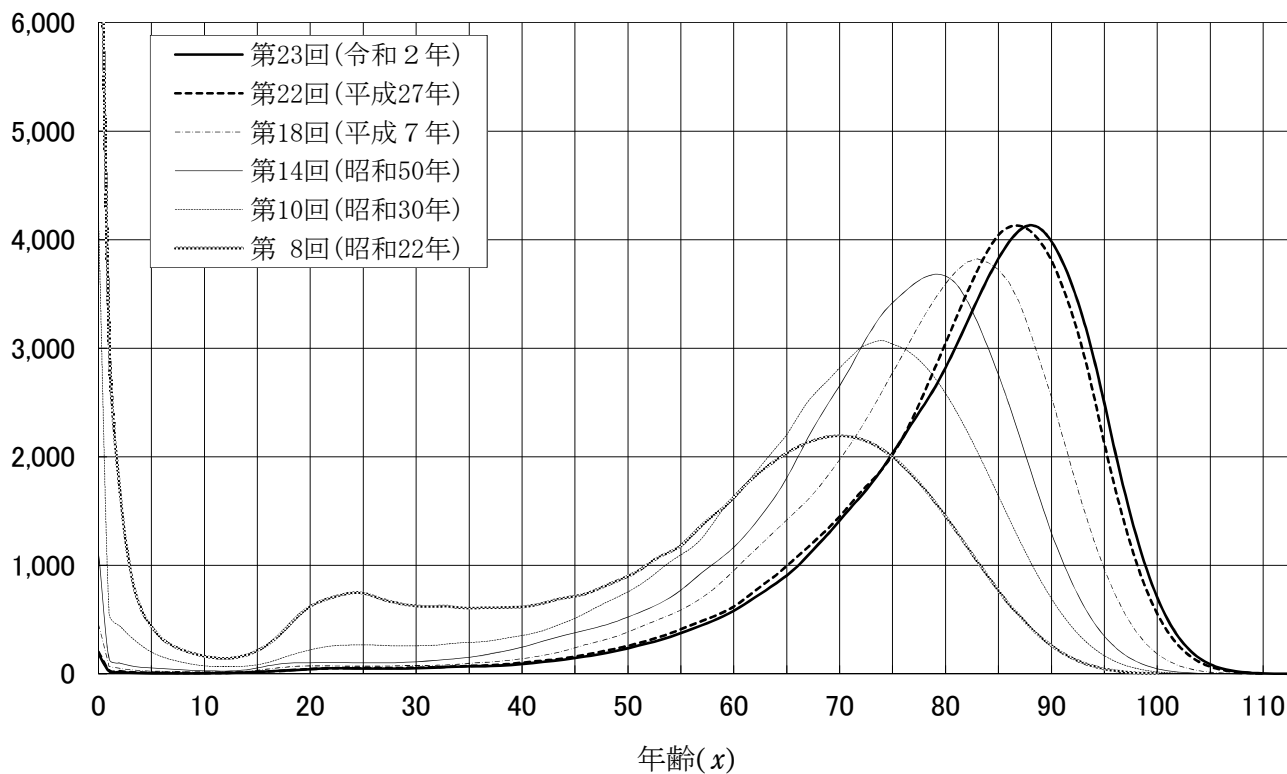
(図 1-1) 死亡率の推移 (男)



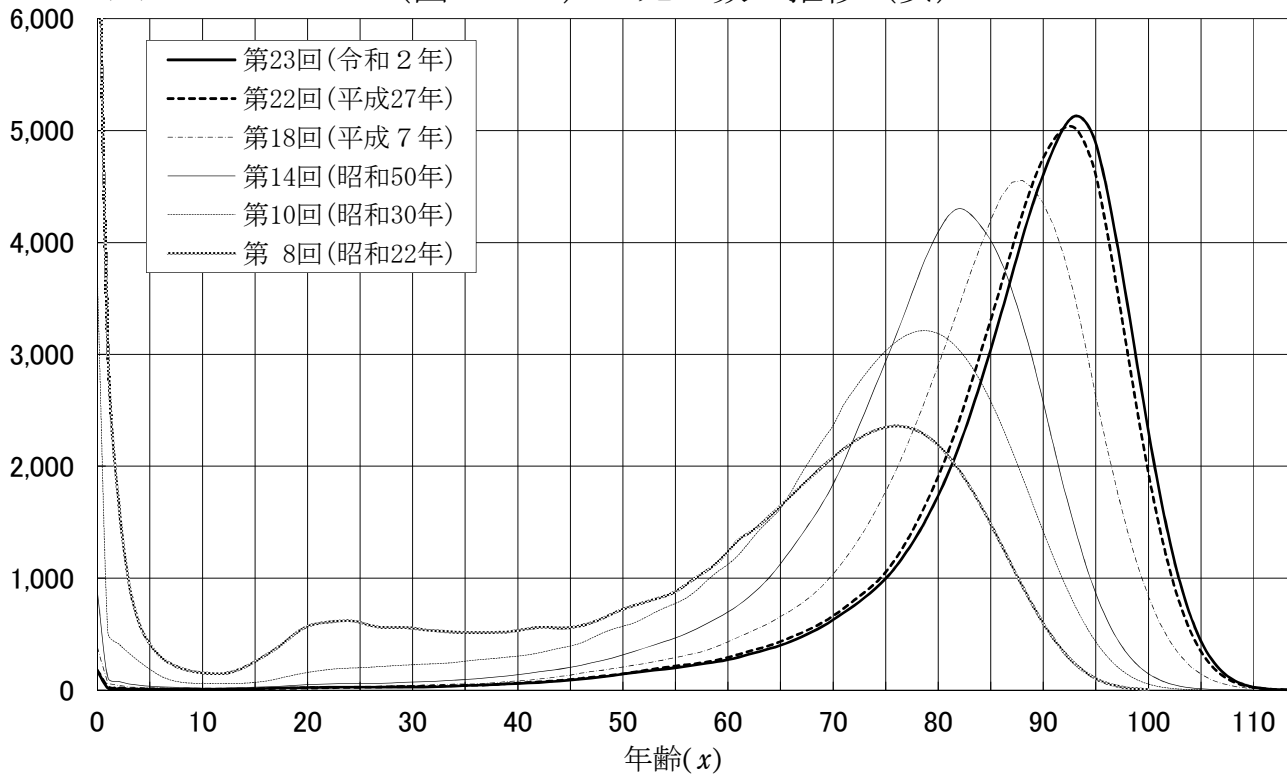
(図 1-2) 死亡率の推移 (女)



死亡数(d_x) (図 2-1) 死亡数の推移 (男)

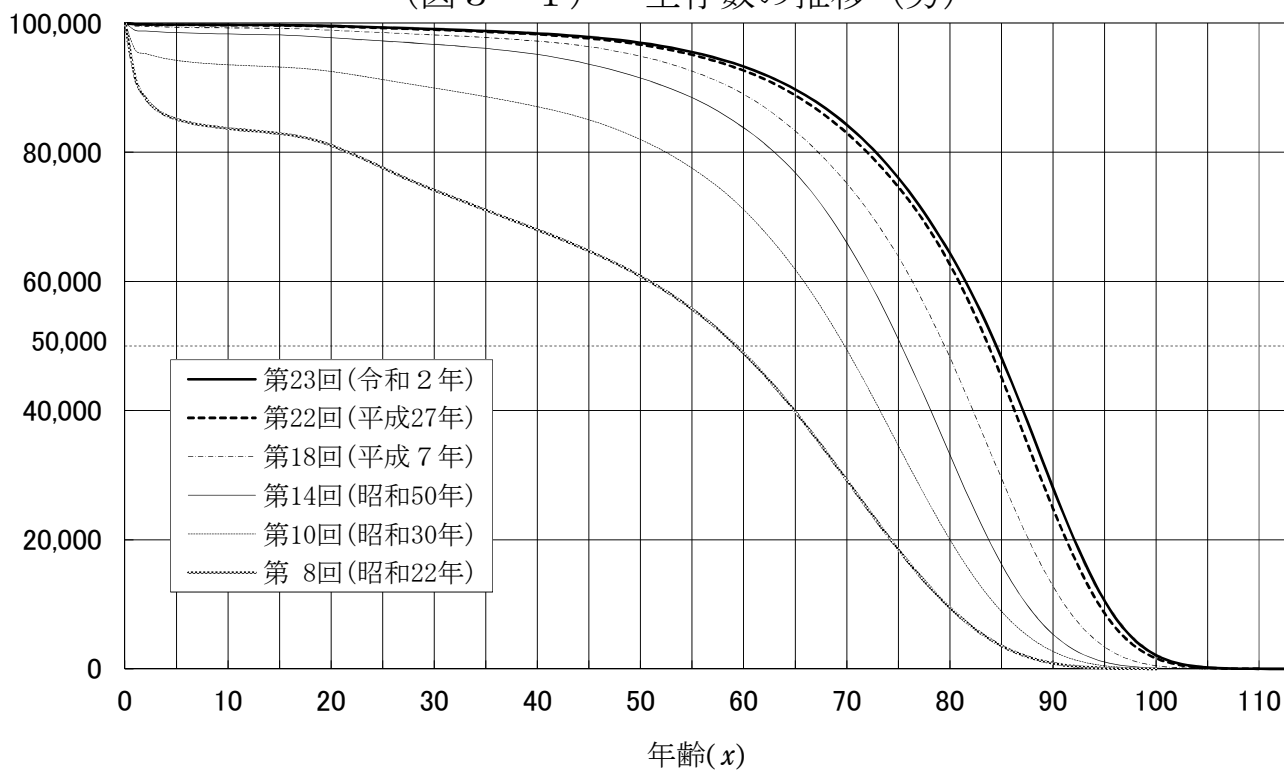


死亡数(d_x) (図 2-2) 死亡数の推移 (女)



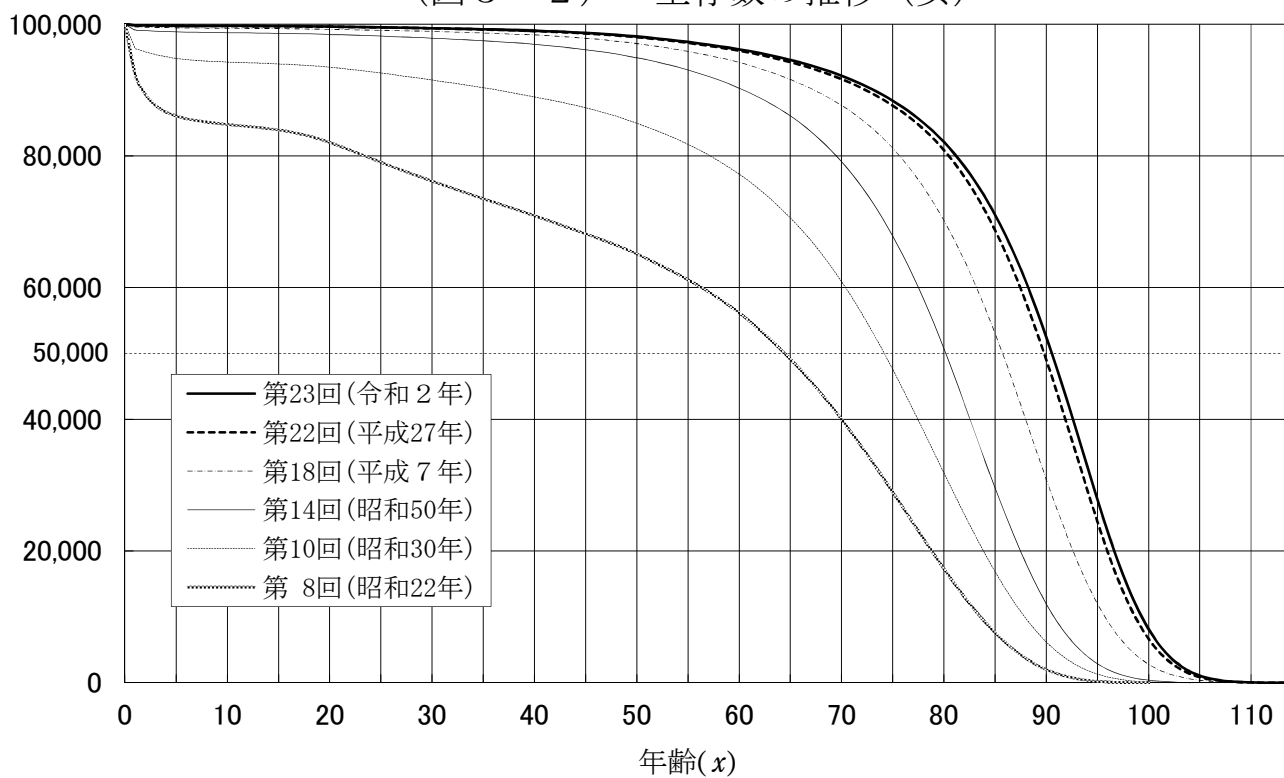
生存数(l_x)

(図 3 - 1) 生存数の推移 (男)

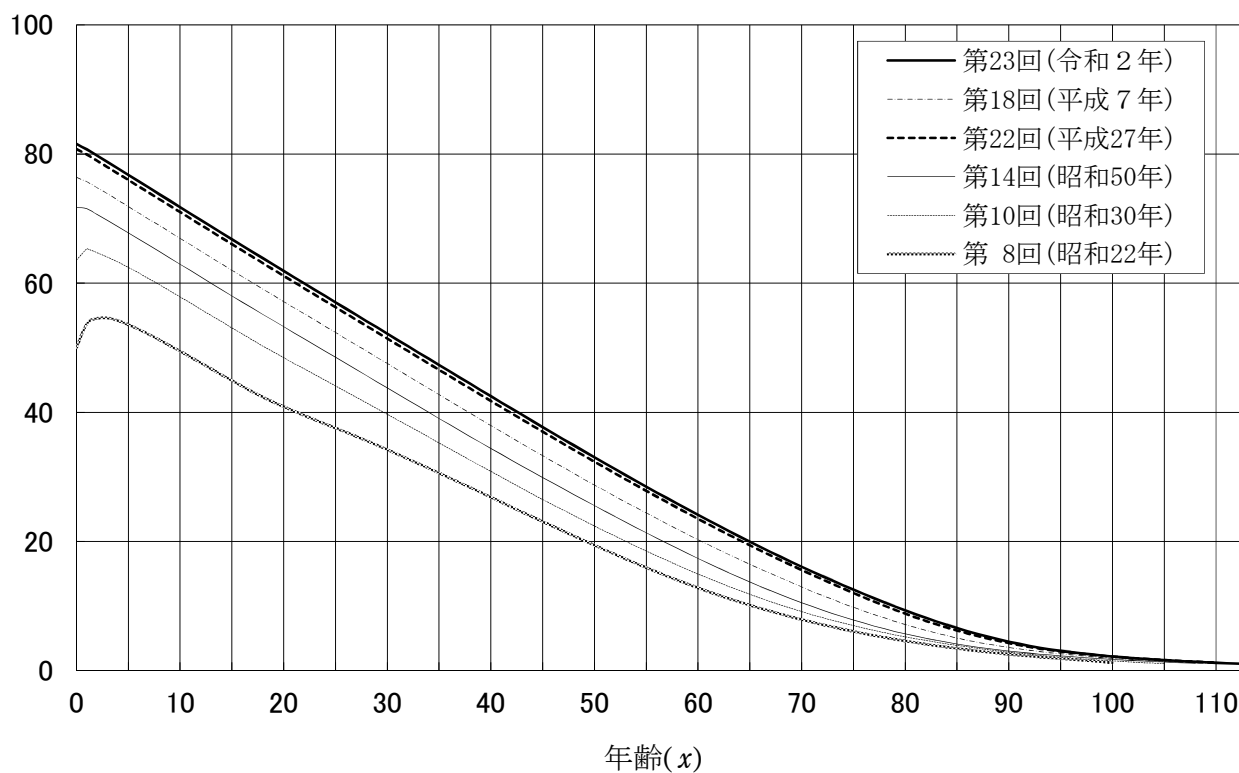


生存数(l_x)

(図 3 - 2) 生存数の推移 (女)



平均余命(e_x) (図4-1) 平均余命の推移 (男)



平均余命(e_x) (図4-2) 平均余命の推移 (女)

